

光・水・風





福岡市東区

博多湾からの海風が吹く、九州大学箱崎キャンパス跡地。

敷地の、風に揺れる木々から着想を得て、取り壊されていくこの地に、光と水と風を取り込む、地域の集会施設を設計する。

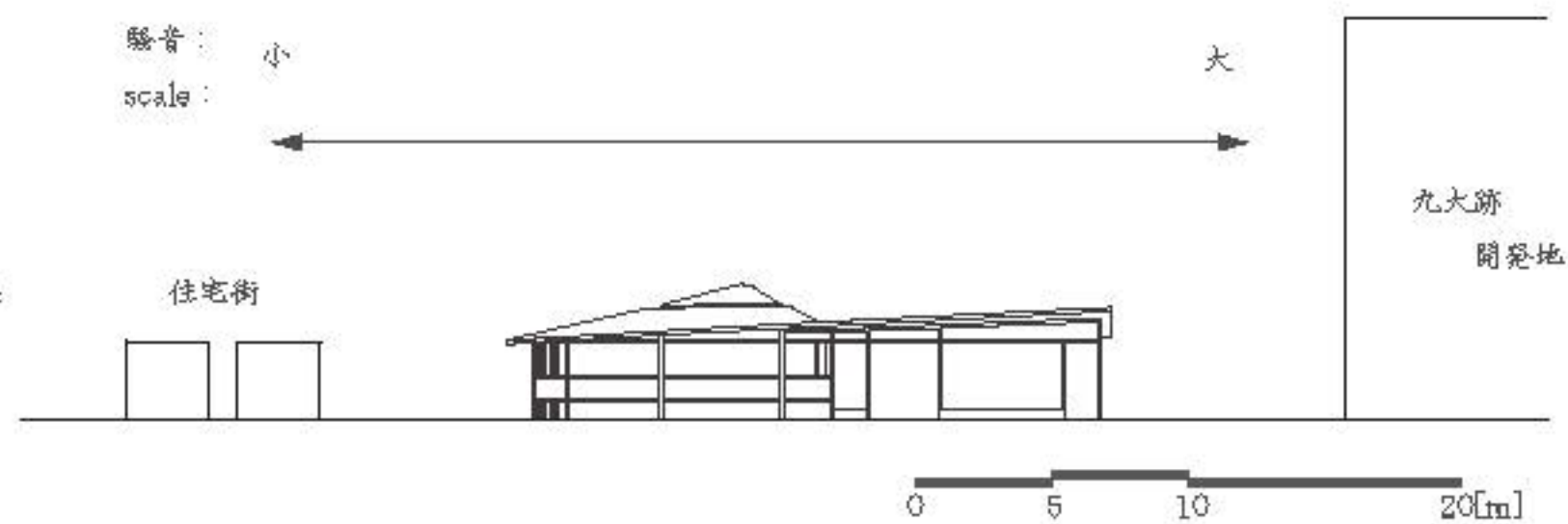


Elevation

Facade には風を通し水を集める屋根の形と縦格子が現れる。

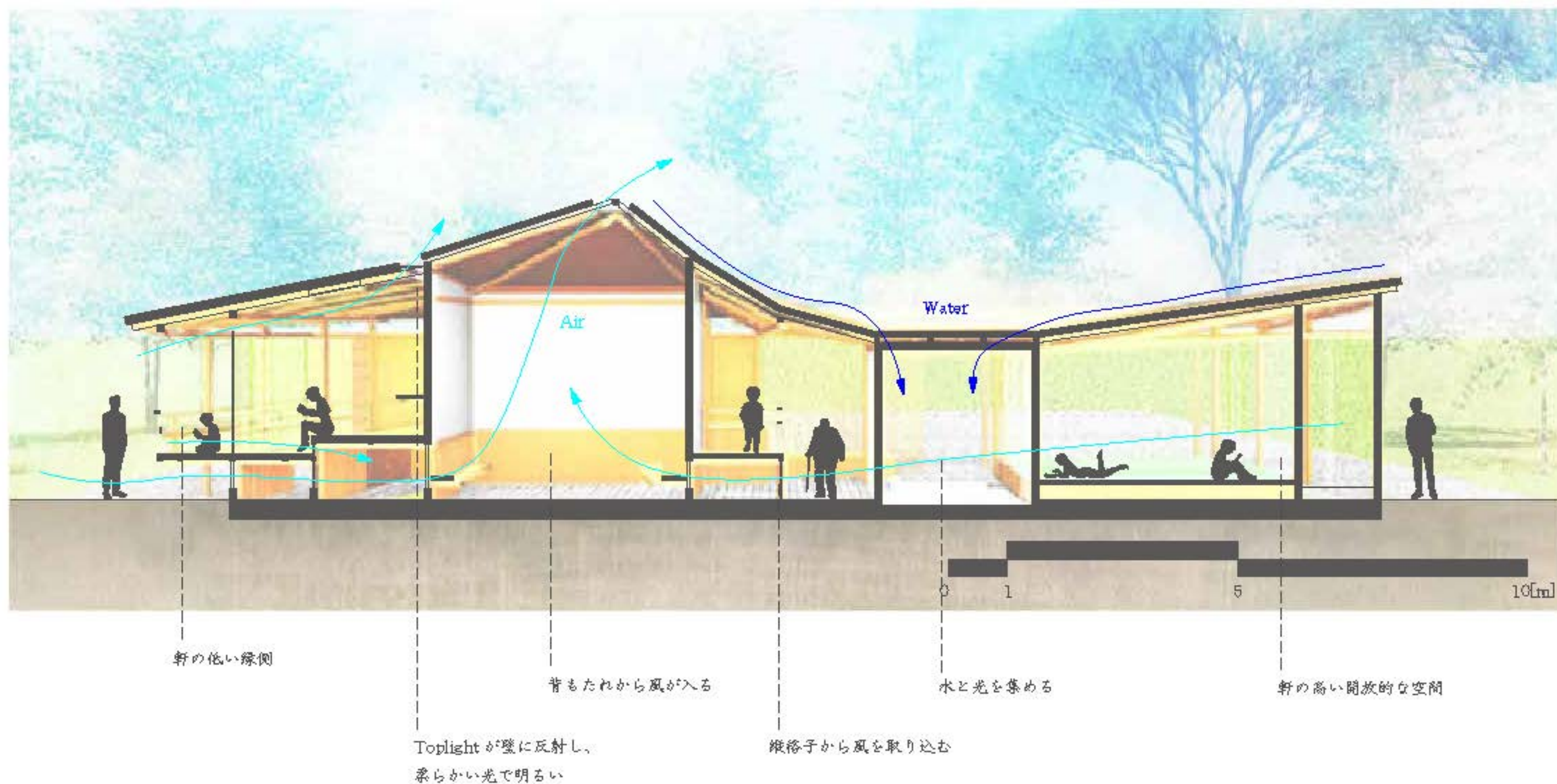


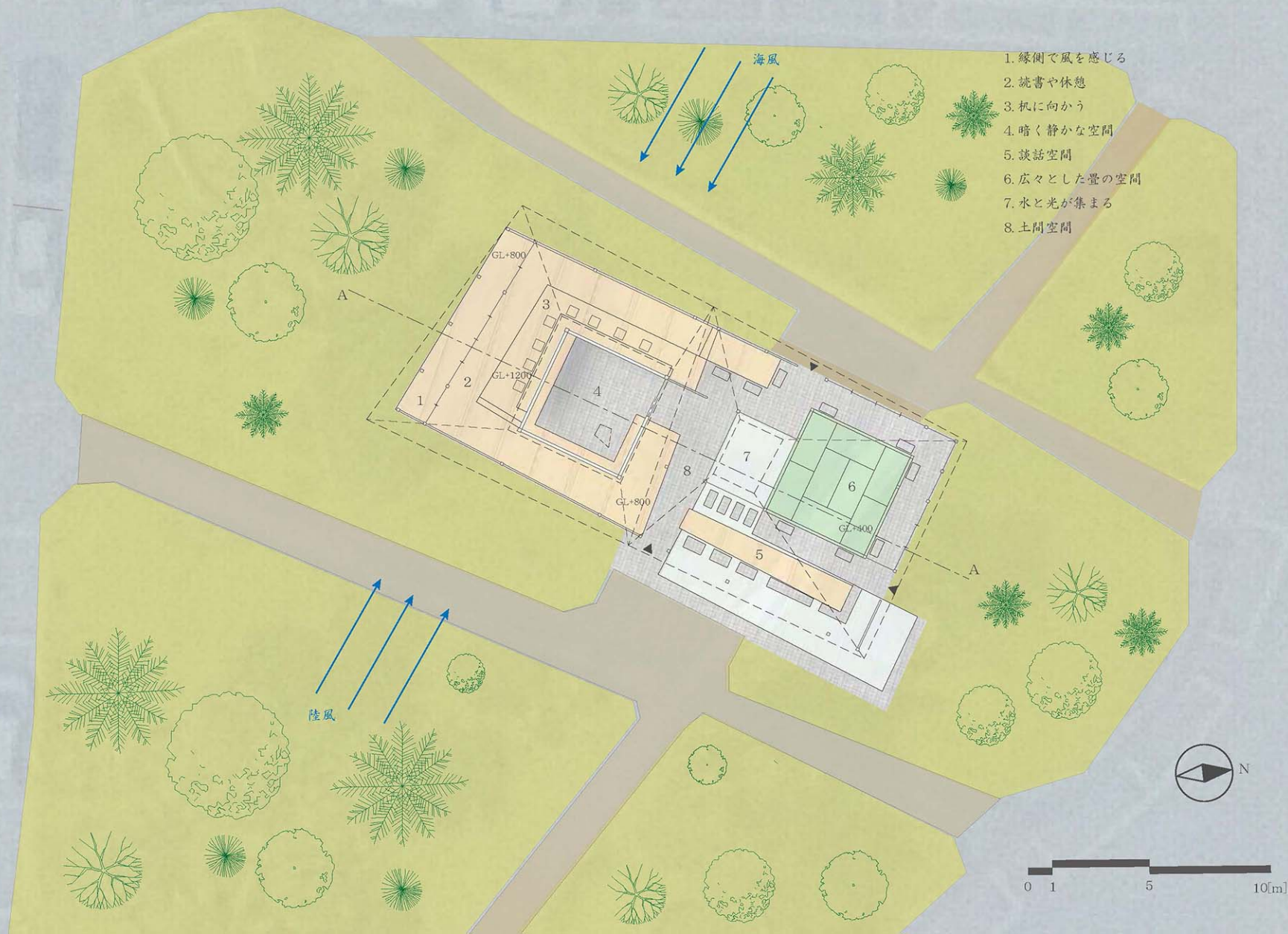
敷地の北には、九州大学跡開発地で比較的高層の建物が多く、
南には低層の住宅街がある。
集会施設は、周辺の scale と活動の騒音に合わせて計画。
北側は仕切りの少ない開放的な空間、南側は縦格子で仕切った
比較的閉じた静かな空間。



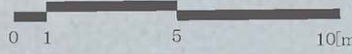
Section

風を通し、水と光を集める形。それらを包む内部空間。

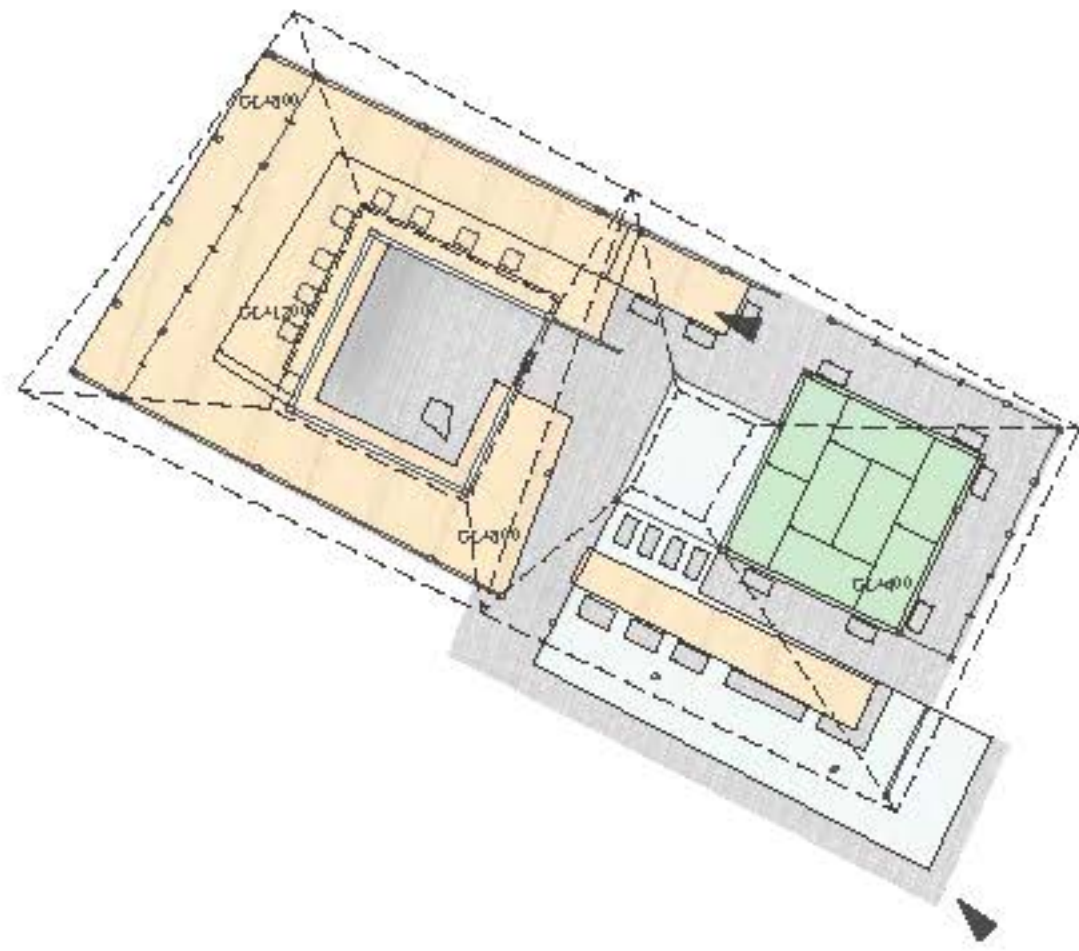




1. 縁側で風を感じる
2. 読書や休憩
3. 机に向かう
4. 暗く静かな空間
5. 談話空間
6. 広々とした畳の空間
7. 水と光が集まる
8. 土間空間



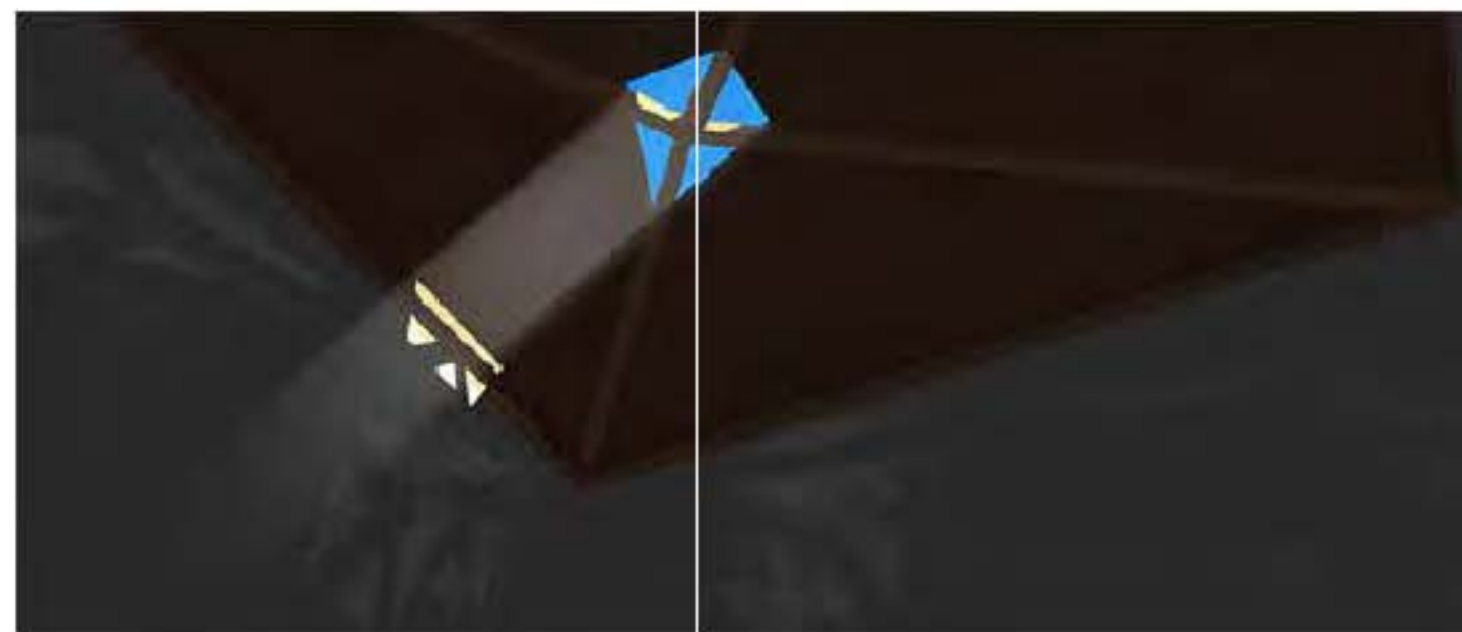
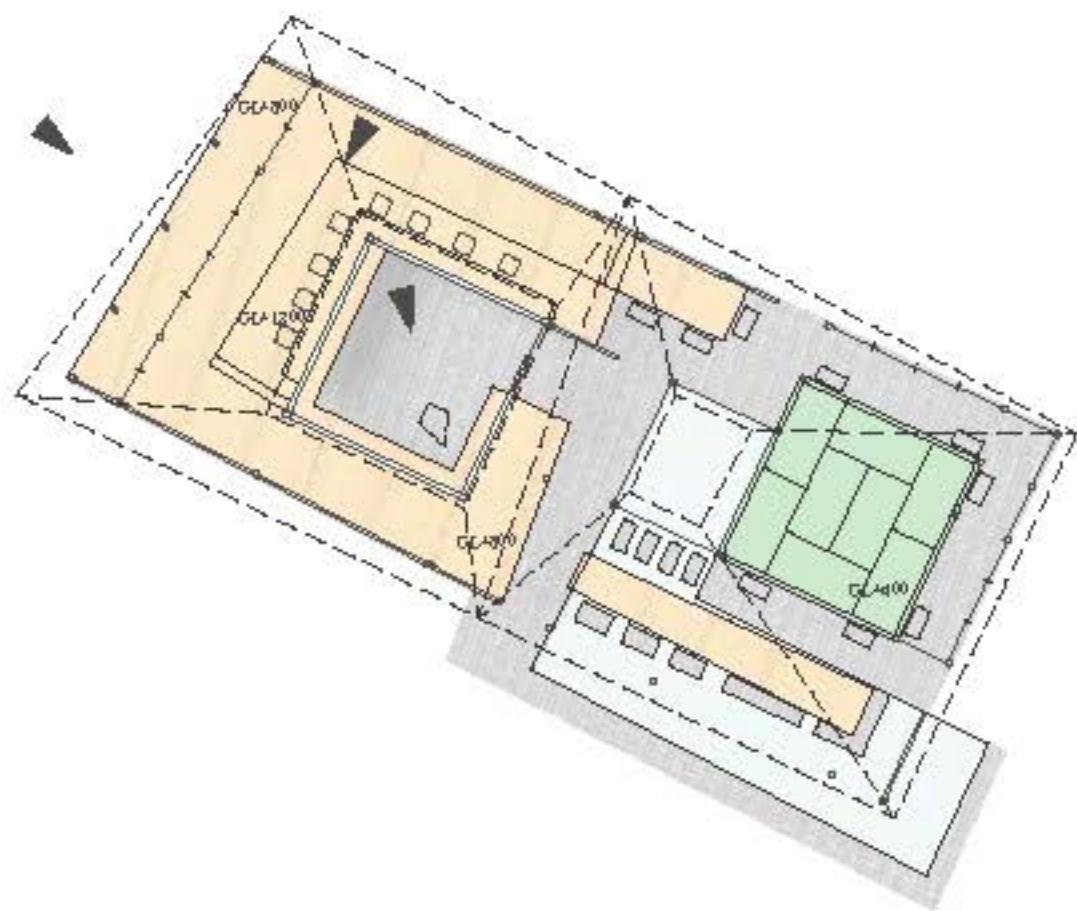
Scene



軒の高い広々とした空間。流れる水の傍で談話する。



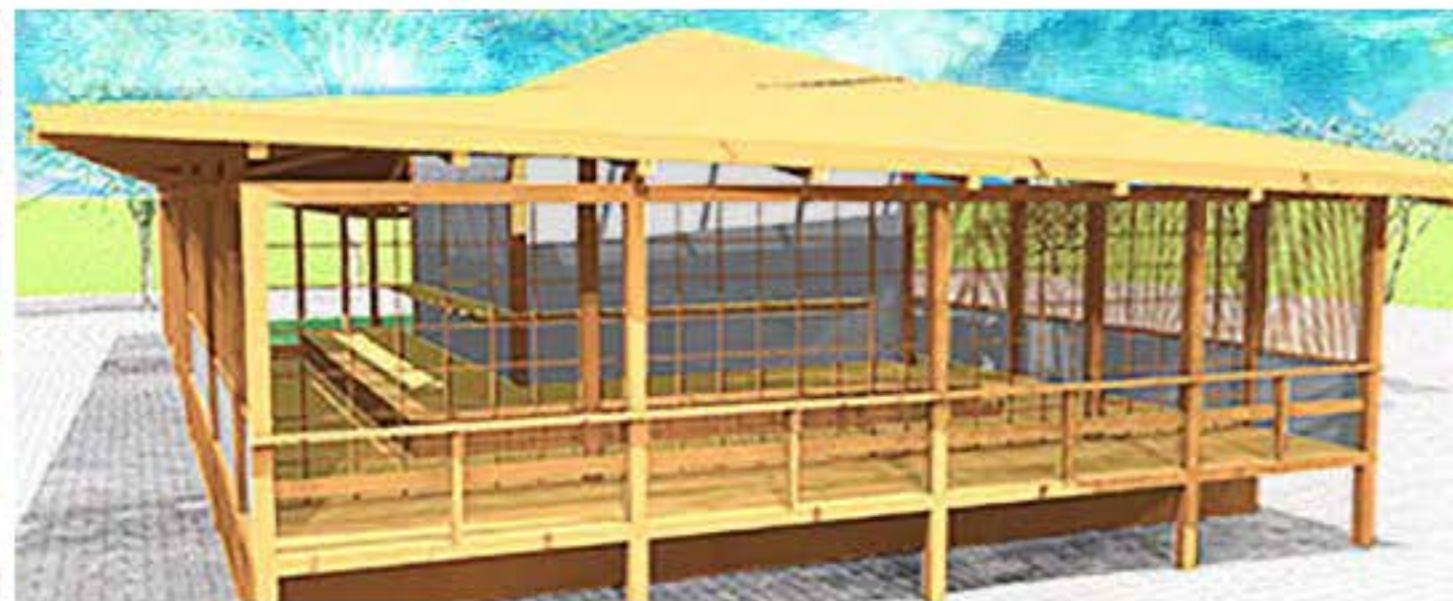
Skylight が注ぐ、明るく静かな空間。



暗闇の中で一人になる静かな空間。
上からの小さな一つの光を見る人々は、一人でありながら周りを照らす。



Slylight が壁に反射し、柔らかい光の下で机に向かう。
400mm の段差には風を感じながら読書や休憩をする人が座る。



軒が長く低い、静かな空間。

Study

切り取った断面のような形。

土間空間を表に出し、談話空間を作る。

屋根勾配により水を取り込み、足元にはグレーチング。



Study

